平成27年度　第５号

幼児教育・保育の質の向上研修ニュース

発行日　平成27年12月1日
発行者　舞鶴市教育委員会
舞鶴市健康・子ども部

７月１３日（午後）　永福保育園において公開保育を実施しました

神戸大学大学院准教授北野幸子先生をお迎えし、永福保育園にて公開保育を実施しました。公開保育は初めてということもあり、遊びの環境や保育者の関わりなどを具体的にご指導いただきました。

永福保育園の園舎は、気持ちの良い風が通り抜け、青々とした稲が波のように揺れ動くさまが一望でき、自然を身近に感じられる環境にあります。このような環境の下、幼児の保育を中心に公開していただきました。“普段の保育を見てほしい”との思いから、各クラスの子どもたちの好きな遊びが準備され、それぞれ遊びに向かう姿が見られました。

遊戯室には、ドキュメンテーションがたくさん展示されており、子どもたちが何に興味を持ち、そこで何を感じていたのかが、見やすく書かれていました。

北野先生からは、それぞれの遊びや環境について、より具体的なアドバイスもあり、参加の皆さんにとっても、参考になることの多い公開保育カンファレンスとなりました。

参加園

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
平保育園
タンポポハウス
なかすじ保育園
東山保育園
ルンビニ保育園
八雲保育園
やまもも保育園
うみべのもり保育所
中保育所
西乳児保育所
池内幼稚園
三鶴幼稚園

与えられたものではなく、子どもが思考し、遊びをつくりだせるような環境づくりを！
～北野先生コメントより～

＜どろんこ遊び・砂遊び＞

泥を全身で感じている子、指先で泥に表現する子、一緒に川を作る子、思い思いに活動する様子が見られました。

【北野先生より】

◎どろんこ遊び楽しそうだった。あの空間が砂場まで広がると、遊びがよりダイナミックになっていく。

◎砂だけでは型がとれない。水が入ることで、ごっこ遊びが広がり、砂や土の性質への気づきが生まれたり、試したり、比べたり、学びにつながっている。

◎大きなスコップやくまでがあると、協同して大きなものが作られるようになる。全身運動にもなり、体づくりにもつながる。

◎タライがあると、そこに集まりコミュニケーションや対話が生まれる。子どもたちの相互作用を促すことになる。

◎どろんこ遊びがどう展開していくのか、子どもの発想や気づき、試す様子を先生も一緒に楽しんでほしい。

＜しゃぼん玉＞

大変風が強かったこの日、しゃぼん玉が風に吹かれる様を言葉で表現し合い、経験から、風によってしゃぼん玉のでき方や飛んでいき方が違うということに、気が付いている様子が見られました。

【北野先生より】

◎先生が教材研究したことを、次は子どもたちが自分で考え試していけるとよい。そのための道具や教材を準備する。

（石鹸、網、おたま、はちみつ、針金など）

◎“洗濯ごっこなどに発展していくかも！”など遊びを見越してタライ等、環境設定をする。

◎机があるのはとてもいい。シャボン玉の容器がたくさんあると、それぞれが試し、それを他者へ発信できる。子どもたちがしている遊びを家庭に発信し、容器や用具を持ってきてもらうなど、協力を得るものいいのでは？ないか。

＜園庭の環境・竹馬＞

目標をもち、竹馬をずっと練習していた数人の５歳児。発達に応じた遊びが自信や達成感につながっている様子が伺えました。

【北野先生よりアドバイス】

◎竹馬をする場所が、周りから見えるところにあると、憧れの気持ちや模倣が生まれる。教えてあげるような姿が出てくるのではないか。

◎動線がループになると走り回れる。子ども達が相談し合い、鬼ごっこなどのゲーム遊びが始まるとよい。

◎地面は、フラットより起伏のあるほうが運動能力が高くなる。

◎竹馬を発表するなど、集団の場で認めてもらえると自信につながる。

＜３歳児　室内遊び＞

自動車遊びから発展した道路づくり。坂道から何度も発車をし、どれくらいの勾配がよいのかを試す姿が見られました。今後、立体的なものになるのか、道路と共に街が作られていくのか、遊びの展開が楽しみです。

【北野先生よりアドバイス】

◎子どもたちの好きな自動車遊びを発展させようという視点が大事。子どもたちから思いやイメージを引き出し、一緒に試行錯誤しながら道路や坂道、ガソリンスタンド等、作っていくと、もっと遊びが広がるのではないか。与えられたものでなく、子どもが思考し、遊びをつくりだせるような環境づくりを心がける。（様々な素材を自由に取り出せることも大事）

◎ままごとコーナーが、固定で設定されると遊びが継続される。生活感を出す工夫をすることで、その場らしいセリフ、人間関係が生まれ、イマジネーション、模倣の能力がつく。（キッチン、エプロン、食器、食材等）

◎子どもの“〇〇したい”という主体性を大切にする。

公開保育にチャレンジすることが大事！
「公開保育に後悔なし、効果あり！」　～北野先生カンファレンスより～

【保育者の関わり】
◎保育者が子どもと一緒に試行錯誤を楽しむ。子どもの「〇〇したい」「もっと〇〇したい」というアグレッシブさを大切にし、もっと自分を出してほしいという視線で関わる。
◎保育者が子ども同士をつなぐことを意識して声をかける。
◎小集団やクラスで話し合いの場を設け、それぞれの遊びや発見、学びを共有することが大事。あわせて、伝えたい、聞きたいという気持ちの育ちにもつながる。
◎素晴らしい風をぜひ活用してほしい。風が感じられる環境を意図してつくる。“強いってどのくらい？どうしたらわかる？”科学的根拠から学びにつなげる。
◎パラレルトークが大事。子どもの行動、体験、感情を保育士が言葉にして投げかけ、遊びをつなげ、ふくらませる。
【その他】
◎自園でしかできない実践が、各園でされるとおもしろい。それが特色となる。
◎（公開）保育は、シナリオ通り、手順通りにならなくてもよい。「こうしなければならない」と無理やりさせるのではなく、子どもが自分で選べる、決められることが大事。子どもの楽しさも全く違う。
◎保育者が「～しなければならない」をどれだけ取り外し、臨機応変に子どもと一緒に保育をつくっていけるかである。
◎ドキュメンテーションは、子どもの興味や発見、きっかけを書く。そこに関わる保育者の意図、ねらい、発達や５領域を交え、遊びの中での学びの見とりを保護者に発信する。保育士の専門性をアピールするツールにもなる。

環境を構成するということとは？
子どもの興味・関心を起点とした遊びの環境。子どもが選べる、準備できる子どもを主体とした環境。
～北野先生カンファレンスより～

◎子どもの興味・関心を起点とし、遊びたくなるような環境。
◎素材や道具を子ども自身で選べる、自分で準備できる**子どもを主体的とした環境。**
【自然】
～自然から豊かな感性や科学へ広げる～
◎風を感じる⇒風の向きがわかるもの（吹き流しなど）を置く⇒風の向き、強弱に気付く。そこから、科学としての風を体験していく。
◎土の種類⇒遊具の下には、サラサラの土、陰になったところの湿った土…園庭には、いろいろな土があることを知る⇒種類や変化に気付き、比べる（晴れた日と雨の日の違いなど）
◎室内に自然（動植物）を取り入れる⇒毎日見て、変化を感じる「なんで？知りたい」⇒図鑑を見て、調べる「わかった、うれしい」⇒表現する（絵に描く、粘土でつくる）
【空間】
～遊びをつなげる、子どもをつなげる～
◎空間を制約すると個別の遊びになる。
◎保育士が、それぞれの**遊びがつながっていくというイメージを持ち、対話や協力、協同を誘うような環境づくり**をする。
◎砂遊びとどろんこ遊びを近くにすると遊びがつながりやすい。
◎水の場所⇒どろんこ遊びや砂場の近いところにタライを置く⇒2～3人が固まって遊ぶ。
◎竹馬の位置（前ページ「園庭の環境、竹馬」に記載）
◎ままごとコーナー（前ページ「3歳児室内遊び」に記載）
◎図鑑などが常にあり、比べたり、整理したり、分類できるような探究コーナーがあるとよい。与えられる知識より、興味関心のあることを自分で調べられることが大事。
【教材・素材・道具】
～子どもの興味・関心を起点に発達を考慮して～
◎子どもの気持ちや興味・関心を起点として、遊びを予測する。そうすれば、準備しておく教材が見えてくる。準備が無駄になってもよい。
◎砂場に大きめのスコップを置くと、ダイナミックな遊びになる。
◎砂、土、水等の自然物、積み木など**低構造なものほど思考力、想像力がつく**。見立てやアレンジが生まれ、相談したり協力したり、やりとりにつながる。

第2回　幼児教育ビジョン策定懇話会　開催

7月13日（月）第2回　幼児教育ビジョン策定懇話会が開催されました。その懇話会に向けて作業部会を実施し、幼児教育ビジョン策定について議論を進めました。
第1回作業部会の中では、47名の保育所・幼稚園・小学校・中学校の先生から構成される作業部会メンバーが4つのグループに分かれて、現状や課題を出し合い、その上で乳幼児期にどのような子どもを育てたいかを議論しました。「意欲的、主体的、夢中になって遊びこむ、自分も友達も大切にする」「自分で考え行動する、思いや意見を伝える、個性や違いを認める」「自己肯定感、自己有能感、自己有用感、愛着形成」等のキーワードが出されました。第2回作業部会では、育てたい子ども像について整理しながら、幼児教育・保育の実践の中でどのようなことを大切にしたいかを話し合いました。
第2回懇話会においては、作業部会での報告を受け、家庭や地域の役割を明確化すると共に、ふるさと舞鶴の良さを知る経験や保育所・幼稚園での遊びや体験の大切さや主体性を尊重した関わりの重要性について意見交換されました。
今後は、「保幼小中の連携」や「方向性」についても議論を進めます。